

平成22年度研究開発実施報告書（要約）

1 「研究開発課題」について

商業の専門高校におけるキャリア教育の在り方について、特に地域社会と連携したキャリア教育を踏まえた、学校教育目標達成のための、教育課程、指導方法、評価方法についての研究開発を実施する。

2 「研究開発の概要」について

商業の専門高校におけるキャリア教育の在り方について、学校設定教科「キャリア」の中に学校設定科目「キャリア」を設定して、「地域活性化プロジェクト」「介護実習」や「インターンシップ」などの体験学習を柱にした教育課程を展開する。また、商業教育における徳育の重要性を理解させながら、商業の専門教育とキャリア教育とを関連づけ、高校3年間をとおしてのキャリア教育の在り方、指導方法及び評価方法を研究する。

本研究では、キャリア教育をとおして「人間関係形成能力」「将来設計能力」「情報活用能力」「意思決定能力」を身につけさせるとともに、働く喜びと学ぶ意欲、生きる喜びを体得させることを目標とする。

3 「研究の目的と仮説等」について

(1) 研究仮説

ア 現状の分析と研究の目的

① 商業教育の現状

現在、我が国では経済低迷の長期化や雇用状況の悪化など、激しい社会情勢の変化が進んでいる。1990年代以降のバブル崩壊やリーマンショックなどの経済環境の悪化や経済のグローバル化による産業及び雇用の構造的変化等の外的な要因も起因している。このような社会情勢の中であるからこそ、学校教育において、将来の職業や生き方についての自覚を促すとともに、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を育成する「キャリア教育」の推進が求められている。

新学習指導要領の教科商業の目標は、「商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。」と記されている。この目標は、今まさに経済社会が求めている人材の育成に直結しているものといえる。商業教育では、職業や仕事に役立つ知識・技能を身に付ける教育活動と、実社会の職業や仕事には、どのような知識・技能が必要で、どのように活用されているか等を理解するための教育活動があり、学校の教育活動が、職業と非常に密接した内容となっている。

しかし、現在の商業教育の取り組みにおいては、資格取得など、専門的な知識・技能を習得させることに重きが置かれた教育内容になってしまっている傾向にある。今後は、「キャリア教育」の視点に立って、知識・技能の習得のみではなく、習得した専門的な知識・技能を実社会でどのように活用させるのかを理解させ、地域社会と連携した体験的な学習をとおして実践的な能力を身につけることが必要である。

② 本校の現状と研究の目的

本校は商業の専門高校であるが、約半数の生徒が入学前は普通科を希望していた生徒であり、明確に就職の希望を持って入学してくる生徒は、学年の3割に満たない。入学時は、7割以上の生徒が上級学校への進学を希望している。その傾向として、中学生が高等学校を選択する際に、「とりあえず普通高校へ」という傾向が背景にある。

また、本校は部活動が盛んなため、上級学校への進学を希望していながら、普通科ではなく、部活動を行うために本校に入学してくる生徒も多い。

しかし、入学後は、商業の専門高校であるため、商業科目を学習し、会計分野や経済分野・IT分野などのビジネスに関する知識・技能を習得するにつれ、自らの適性や進路について考え、就職希望者は入学時よりも増加し、就職内定率についてはほぼ100%の状態が続いている。また、進学希望の生徒についても、商業系・経済系・情報処理系の上級学校に進学する生徒が多い。

この現状を踏まえ、専門高校におけるキャリア教育の在り方について、各学年段階での目標、教育課程上の位置づけ、指導内容及び評価方法について研究し、キャリア教育をとおして「人間関係形成能力」「将来設計能力」「情報活用能力」「意思決定能力」を身につけさせ、将来の社会を支え貢献できる人材を育成することを目的とする。

また、商業の専門高校が地域社会の中心となってキャリア教育を推進していくことにより、地域社会全体で子どもたちを育てる環境をつくり、地域におけるキャリア教育の中心機関としての確固たる地位を確立させる。

イ 研究仮説

- ① 3年間をとおしてキャリア教育を推進するため、学校設定教科「キャリア」を新設し、その中に学校設定科目「キャリア」(第2学年1単位、第3学年3単位)を設置して指導内容及び評価方法について研究する。

新教科「キャリア」目標

家庭・地域社会・企業等との連携によるキャリア教育をとおして、将来の職業や生き方についての自覚を促すとともに、「人間関係形成能力」「将来設計能力」「情報活用能力」「意思決定能力」を身に付け、人間力を醸成し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「社会人基礎力」を育成する。

- ② 第1年次には、第1学年「ビジネス基礎」2単位の中に、キャリア教育に係る主な学習内容として、ビジネス体験を目的とした「東商アウトレットモール」の開催と、他を思いやる心・ホスピタリティなど人間関係形成能力の育成と介護福祉の理解を目的とした「介護実習」を導入し、指導内容及び評価方法について研究する。
- ③ 第2年次には、第2学年に学校設定科目「キャリア」1単位を設定し、全員に大学・短大・専門学校への「上級学校インターンシップ」と、職業現場での「職場インターンシップ」を実施し、職業観・勤労観および将来設計能力を養うとともに、地域との連携を図り、地域社会の教育力を活用したキャリア教育の展開を研究する。
- ④ 第3年次には、第3学年に学校設定科目「キャリア」3単位を設置し、職業研究・高度資格取得・新商品開発・地域活性化事業・調査研究・社会常識研究等の内容別に講座を設定し、自らの将来の進路を考慮して、より具体的なスキルアップを図るとともに、専門性を高め、地域社会と連携しながらキャリア発達を支援していくキャリア教育の研究をする。
- ⑤ 普通教科の授業の中で、キャリア教育に関係する指導内容に関して研究し、教員相互の研修の上、授業を実施する。
- ⑥ 徳育の観点から、生徒指導および部活動指導をキャリア教育と関連づけ人間関係形成能力、意思決定能力を育成する。
- ⑦ 社会への「適応力」を身につけるキャリア教育の指導方法の研究のため、教職員の研修を充実させ、指導力を向上させる。

(2) 必要となる教育課程の特例

- ア 第1年次は、第1学年「ビジネス基礎」2単位の中に、キャリア教育に係る学習内

容を導入する。

- イ 第2年次は、学校設定教科・科目「キャリア」4単位の内1単位を、第2学年で「総合的な学習の時間」の代わりに履修させ、インターンシップを実施する。
- ウ 第3年次は、学校設定教科・科目「キャリア」4単位の内3単位を、第3学年「課題研究」の代わりに履修させ、自己のキャリア能力開発のため、自ら課題と目標を設定させ、より具体的なスキルアップを図れる講座別授業を展開する。

4 「研究内容」について

(1) 教育課程の内容

ア 第1学年「ビジネス基礎」2単位の内容

- ① ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身につけさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を身に付けさせる。また、より専門的な学習への動機付けや商業を学ぶ目的・学び方、卒業後の進路についてのガイダンスにより進路決定に関する意識を深める。
- ③ 「介護実習」を体験させ、福祉の大切さと、「命」の大切さを学び、他を思いやる心を育成させ、人間関係形成能力を養う。
- ④ 「東商アウトレットモール」を展開し、ビジネスの諸活動の体験学習をとおして、ビジネスの理解と、接客・販売活動をとおしてホスピタリティを学び、人間関係形成能力を養う。

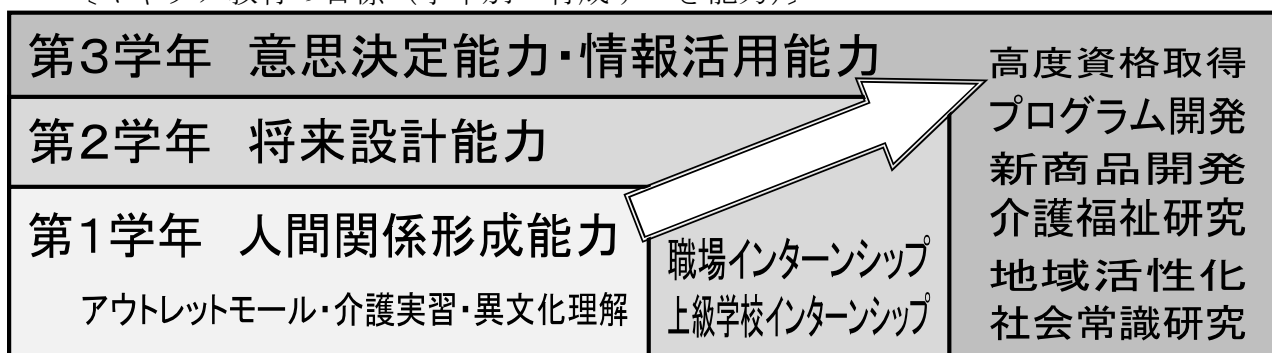
イ 第2学年「キャリア」1単位の内容

- ① 職業現場におけるインターンシップ（職場インターンシップ）をとおして、職業観、勤労観や倫理観などを育成させるとともに、自己の適性と希望する職種・業種との関連について考えさせ、将来設計能力を養う。
- ② 大学・専門学校におけるインターンシップ（上級学校インターンシップ）をとおして、上級学校における学習内容と自己の適性と希望する学部・専攻について考えさせるとともに、専門学校においては、職種への理解と適性について考えさせ、将来設計能力を養う。
- ③ インターンシップをとおして、職業において必要な知識や能力及び考え方を理解し、今後のキャリア能力開発の課題を設定させ、その解決に向けて取り組ませる。

ウ 第3学年「キャリア」3単位の内容

- ① 商業の基礎的・基本的な学習の上に立ち、自己のキャリア能力開発のため、自ら課題と目標を設定させ、計画的に取り組ませる。
- ② 高度資格取得・プログラム開発・新商品開発・地域活性化事業・調査研究・社会常識研究等の内容別に講座を設定し、自らの将来の進路を考慮して、より具体的なスキルアップを図り、社会人・職業人として必要な知識や態度を育成する。
- ③ 地域と連携をとり、地域活性化について取り組ませる。

[キャリア教育の目標（学年別 育成すべき能力）]



エ 研究成果の評価方法

キャリア教育の目標として、学年ごとに重点的に指導するキャリア発達能力を設定し、働く喜びと学ぶ意欲、生きる喜びを体得させることとする。その後、評価のための体制を整備し計画終了時だけでなく実践過程についても評価する。評価にあたっては、基本的な評価の観点を作成し、それらを踏まえ評価する。

具体的には、生徒・教職員を対象とした意識調査や、生徒を対象とした「アンケート調査」および「社会人基礎力調査」のデータ結果を基にして、客観的に評価する。

[評価の基本的な観点]

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育の目標が具体的に明確であること。 ② 目標が、生徒の実態に合致し実現可能であること。 ③ キャリア教育の意義や計画が理解されていること。 ④ 生徒の変容や効果が具体的に示されていること。 ⑤ 教員が、評価の目的、方法を理解し、適切に評価できる能力を有すること。 ⑥ キャリア教育推進体制が整備されていること。 |
|---|

(2) 研究の経過

第1年次（平成20年度）	第2年次（平成21年度）
<ul style="list-style-type: none"> ①「キャリア教育推進委員会」発足 （8名、毎週水曜日・金曜日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・第1年次の研究内容について検討 ・キャリア教育についての理解 ・研究開発学校についての理解 ・研究開発の組織について検討 ②「インターンシップ実行委員会」発足 <ul style="list-style-type: none"> ・「インターンシップ」実施 ③「アウトレットモール実行委員会」発足 <ul style="list-style-type: none"> ・「東商アウトレットモール」開催 ④「介護実習実行委員会」発足 <ul style="list-style-type: none"> ・「介護実習」実施 ⑤「地域活性化プロジェクト委員会」発足 <ul style="list-style-type: none"> ・「シャッターペイント」実施 ・「東商朝市」開催 ⑥キャリア教育職員研修開催 ⑦キャリア教育先進校視察 	<ul style="list-style-type: none"> ①「キャリア教育実行委員会」発足 （8名、毎週月曜日・木曜日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発の内容及び組織について検討 ・研究開発成果の評価について検討 ・地域活性化プロジェクトについて検討 ・職員研修について検討 ・研究開発報告会について検討 ②「第1学年キャリア教育実行委員会」開催 <ul style="list-style-type: none"> ・「東商アウトレットモール」開催 ・「介護福祉講習会」開催 ・「介護実技講習会」開催 ・「ホスピタリティ講習会」開催 ・「異文化理解学習」実施 ・アンケート調査実施 ③「第2学年キャリア教育実行委員会」開催 <ul style="list-style-type: none"> ・「上級学校説明会」実施 ・「上級学校インターンシップ」実施 ・「ビジネスマナー講習会」開催 ・「職場インターンシップ」実施 ・評価方法検討 ・アンケート調査実施 ④「第3学年キャリア教育実行委員会」開催 <ul style="list-style-type: none"> ・教科・科目「キャリア」の講座内容検討 ・「東商朝市」毎月開催 ・「新商品開発」 ・評価方法について検討 ⑤ キャリア教育職員研修開催 ⑥ キャリア教育先進校視察 ⑦ 運営指導委員会開催 ⑧ 研究開発中間報告会開催

第3年次（平成22年度）

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| ① 「キャリア教育実行委員会」発足（9名、毎週木曜日開催） | |
| ・研究開発の内容について検討 | ・研究開発成果の評価について検討 |
| ・研究開発実施報告書について検討 | ・研究開発報告会について検討 |
| ② 「第1学年キャリア教育実行委員会」開催 | |
| ・「東商アウトレットモール」開催 | ・「介護福祉講習会」開催 |
| ・「介護実技講習会」開催 | ・「ホスピタリティ講習会」開催 |
| ・「介護実習」実施 | ・「異文化理解学習」実施 |
| ・社会人基礎力調査実施 | |
| ③ 「第2学年キャリア教育実行委員会」開催 | |
| ・「進路ガイダンス」実施 | ・「上級学校説明会」開催 |
| ・「上級学校インターンシップ」実施 | ・「ビジネスマナー講習会」開催 |
| ・「職場インターンシップ」実施 | ・評価方法検討 |
| ・社会人基礎力調査実施 | |
| ④ 「第3学年キャリア教育実行委員会」開催 | |
| ・第3学年教科・科目「キャリア」の講座内容検討 | |
| ・「東商朝市」毎月開催 | ・「新商品開発」 |
| ・評価方法について検討 | ・社会人基礎力調査実施 |
| ⑤ キャリア教育職員研修開催 | |
| ⑥ 運営指導委員会開催 | |
| ⑦ 研究開発実施報告会開催 | |

(3) 評価に関する取組

ア 第1年次

- ① アウトレットモール実施後に第1学年生徒を対象に、感想文の記入およびアンケート調査を実施して、生徒の理解度や、キャリア発達の程度を評価・確認した。
- ② 第1学年生徒を対象に介護実習において、事前指導のレポートや実習日誌、事後報告書にまとめさせ、適切に作成されていたかなど取り組み状況の評価と、実習先からの評価、報告会・感想文などからキャリア発達の状態などについて評価・確認した。
- ③ 介護実習実施後は、第1学年生徒を対象にアンケート調査を実施して、介護実習全体の評価を実施した。

イ 第2年次

第1年次の評価に関する取組に加えて、以下の内容で評価を実施した。

- ① 学年末に第2学年「キャリア」の授業についての感想文の記入およびアンケート調査を第2学年対象に実施して、生徒の理解度やキャリア発達の程度を評価・確認した。
- ② 第2学年生徒を対象に、インターンシップの事前学習における準備ができていたか、実習日誌が記入されていたか、実施後の報告書が適切に作成されていたかなど取組状況の評価と、インターンシップ先からの評価、報告会・感想文などからキャリア発達の状態などについて評価・確認した。
- ③ インターンシップ実施後に、第2学年生徒を対象としてアンケート調査を実施して、インターンシップ全体についての評価を実施した。

ウ 第3年次

第2年次の評価に関する取組に加えて、以下の内容で評価を実施した。

- ① 4月に全校生徒を対象に1回目の社会人基礎力調査を実施した。同時に、他の進学校と普通高校の2校にも同様の調査を実施して、比較・評価した。

- ② 12月に全校生徒を対象に2回目の「社会人基礎力」調査を実施して、4月からの変容を確認し、評価した。
- ③ 教職員を対象に、研究開発に関するアンケート調査を実施し、教職員の意識と研究開発全体について評価した。

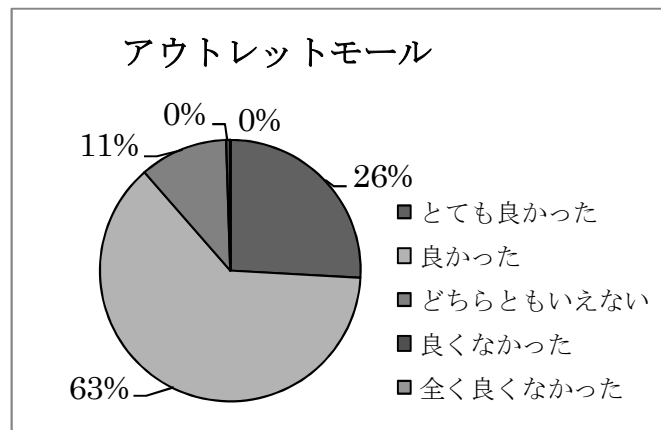
5 「研究開発の成果」について

(1) 実施による効果

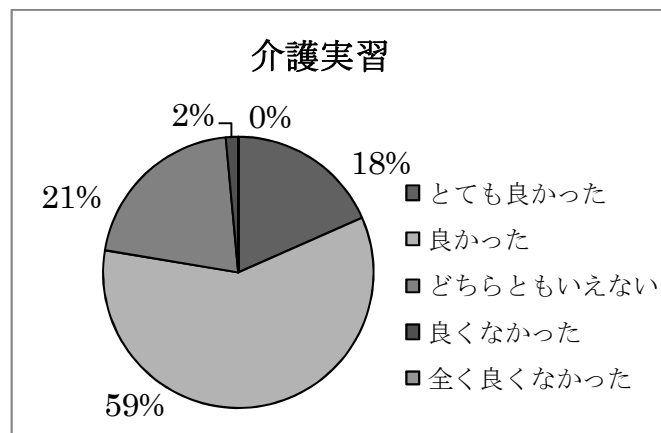
ア 児童・生徒への効果

① 第1学年

ビジネス体験として地域企業と連携して展開した「アウトレットモール」においては、実際に商品を仕入・販売することにより、商業活動やビジネスについて深く理解させることができた。生徒は、初めは戸惑いながら準備をしていたが、次第に様々な販売方法を提案し、商品陳列や販売促進活動・接客など、非常に意欲的に取り組んでいた。実施後の感想などにおいても、「実際のビジネスが体験できてよかった」「とても楽しかった」「お客様にありがとうと言われて感激した」「自分で工夫したことが売り上げに貢献してうれしかった」「商売の難しさがよくわかった」「ビジネスの仕組みがよくわかった」など肯定的な感想が多く、体験して良かったと答えた生徒は約90%であり、非常に教育効果が高い取組であった。



「介護実習」においては、事前指導として介護福祉についての学習や、介護実技についての講習会などを実施して、福祉の大切さと介護技術を学ぶことができた。また、「ホスピタリティマインド」に関する講演会も実施し、人間関係形成能力の基本となる「他を思いやる心」「おもてなしの心」を学んだ。実習当日は、常に優しいまなざしで高齢者と接し、意欲的に介護実習に取り組んでいた。

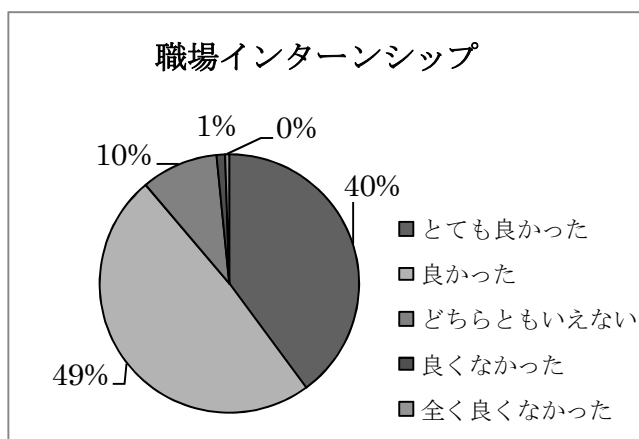


事後のアンケートでは、体験して良かったと答えた生徒は約80%であった。

② 第2学年

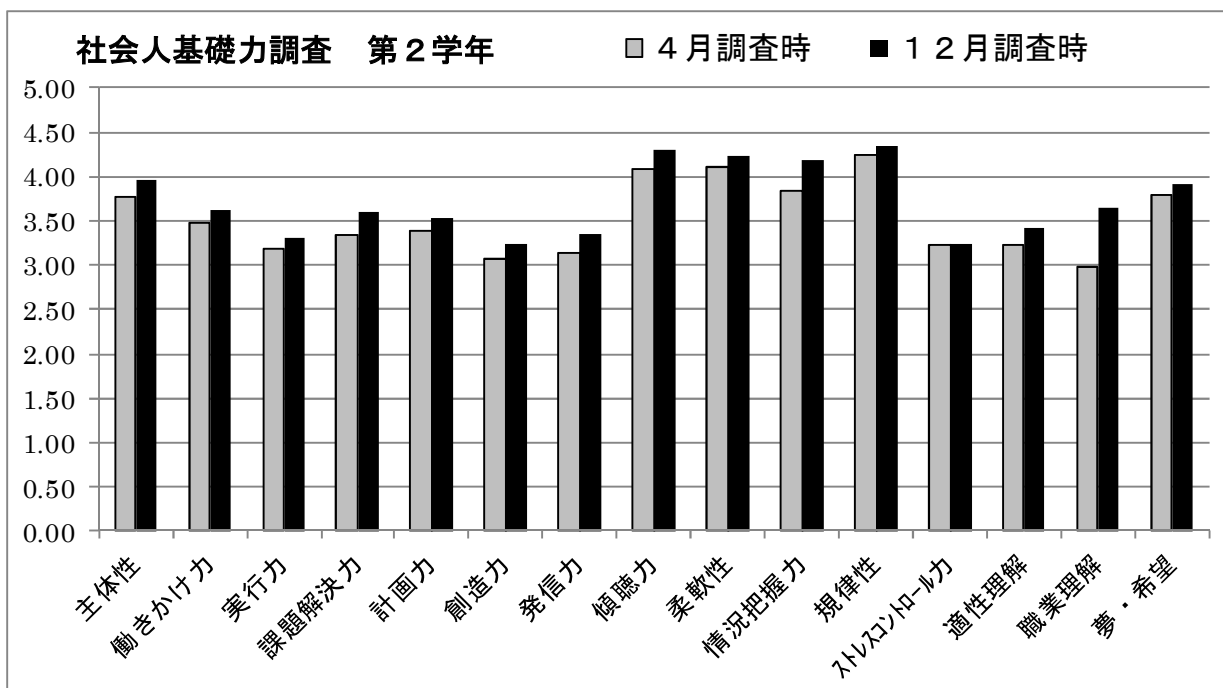
「上級学校インターンシップ」においては、事前の進路ガイダンスやオープンキャンパスへの参加などによって、上級学校の学習内容を理解することができ、進路選択の情報を収集することができた。報告書にも、「2年生で進学希望先の情報を詳しく学べてよかった」「大学の学習についてよく理解できた」「将来の職業と関連させて進学先を選ぼうと思う」などの意欲的な感想が多く、約80%の生徒が体験して良かったと答えている。また、就職希望者においても、希望職種の専門学校において、仕事内容や学習内容について学ぶことができ、職業適性について考えることができた。

「職場インターンシップ」においては、事前学習における企業研究、職業現場における実習、事後指導による報告書の作成を実施した。特に実習においては、実際の職業現場を体験でき、職業観・勤労観を身につけるとともに、将来設計能力・人間関係形成能力を育成することができた。アンケート結果によると、約90%の生徒がインターンシップを体験できて良かったと答えている。



第2学年においては、「社会人基礎力」に関する意識調査の4月と12月に実施したデータを比較した結果、全ての項目において数値が向上しており、インターンシップを実施した成果があらわれている。

〔社会人基礎力意識調査 第2学年生徒 実施時期 平成22年4月・12月〕



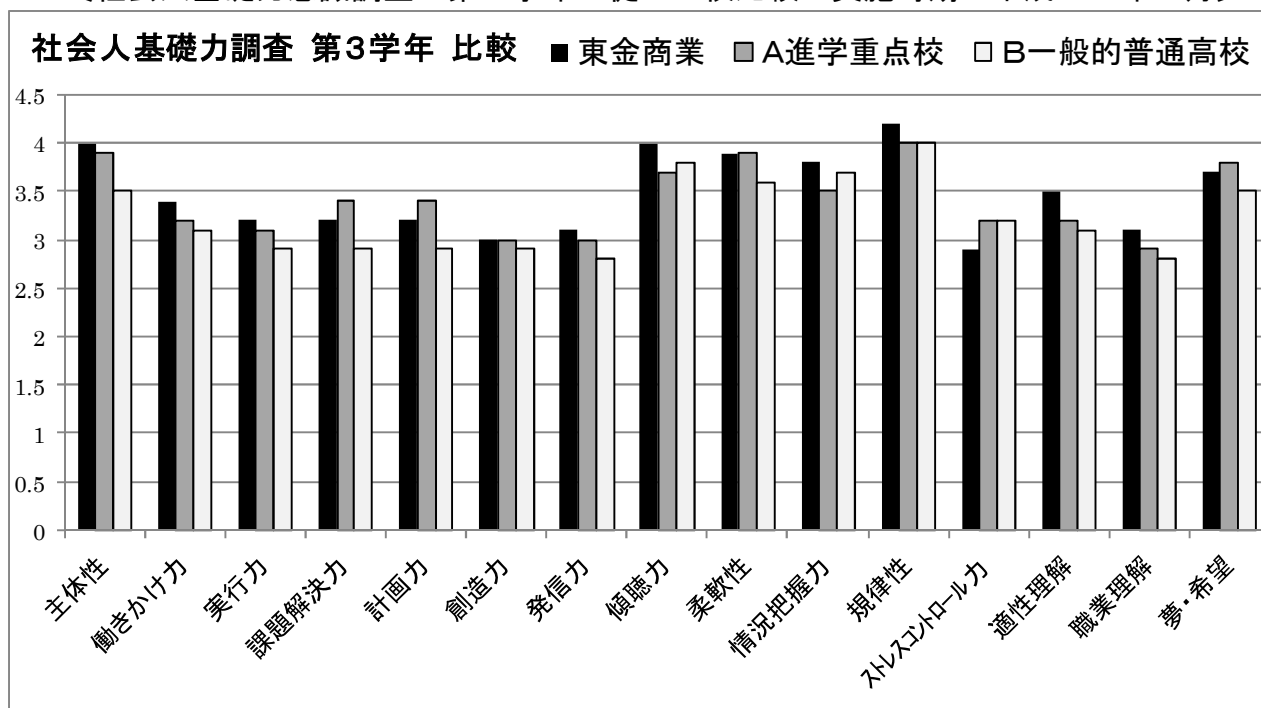
③ 第3学年

高度資格取得・プログラム開発・新商品開発・地域活性化研究・調査研究・社会常識研究等の内容別に講座を設定し、生徒自ら将来の進路を考慮して、より具体的なスキルアップを図り、職業人として必要な知識や態度を育成することができた。とくに、地域活性化プロジェクトにおいては、「朝市」の開催や、地元産品を使用した「新商品」の開発に取り組み、実際のビジネス活動を展開し、意思決定能力・情報活用能力および人間関係形成能力を育成することができた。

現在の第3学年は、本校に入学してから3年間の研究開発期間に様々なキャリア教育活動を体験・学習しており、この期間の教育効果を確認するために「社会人基礎力」に関する調査を、本校・進学重点校・普通高校の3校の第3学年生徒を対象に実施した。その結果本校は、調査した進学重点校・普通高校に比べ、「社会人基礎力」について高い意識と自覚を持っていることがわかった。特に、「主体性」「働きかけ力」「実行力」の「前に踏み出す力」と、「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」

などの「チームで働く力」が優れていた。また、「自己の適性理解」「職業理解」についても高い数値となっており、商業高校の教育活動の成果が出ている。

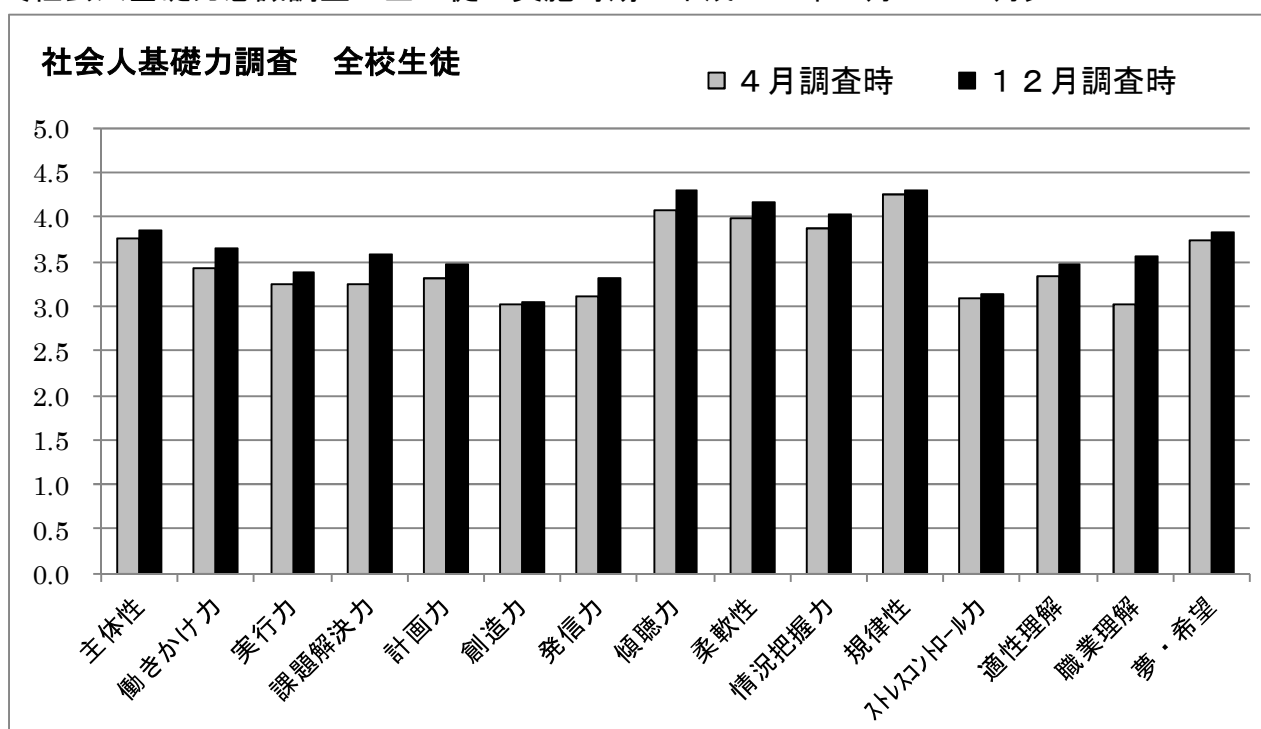
〔社会人基礎力意識調査 第3学年生徒 3校比較 実施時期 平成22年4月〕



④ 本校全体の成果

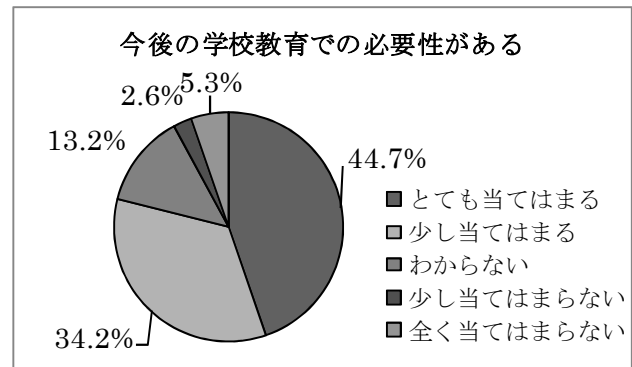
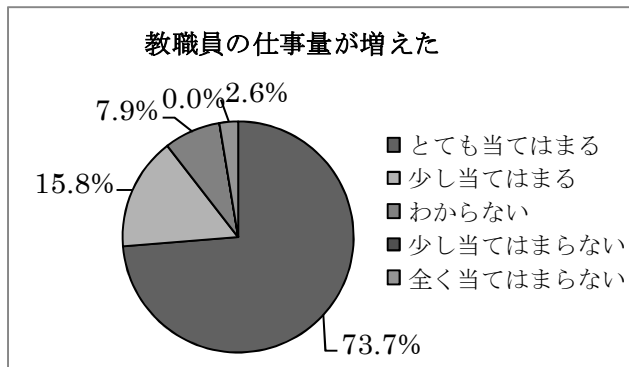
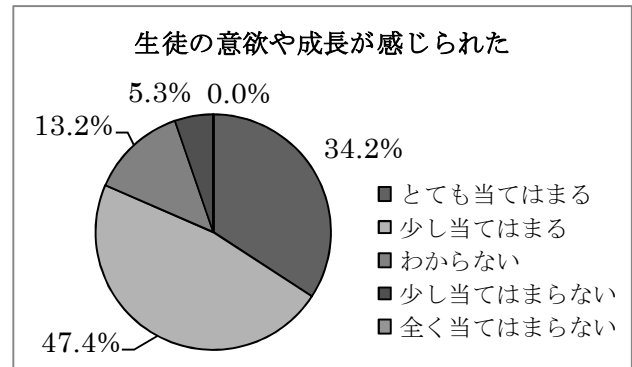
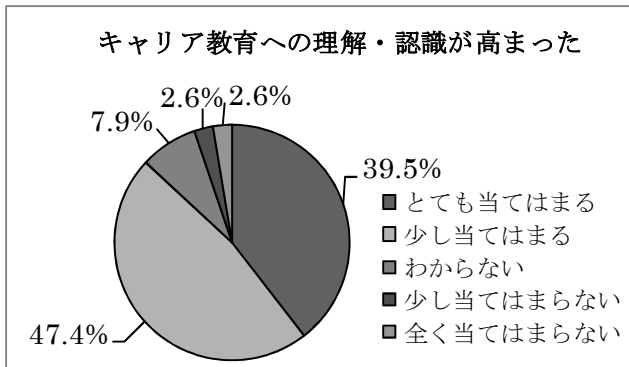
本校が実施している「キャリア教育」による生徒の変容を検証するため、4月と12月の2回に分けて「社会人基礎力に関する意識調査」を全校生徒対象に実施した。その結果、年度途中ではあるが、全ての項目において、4月実施時に比較して12月実施時の数値が向上していた。本校が展開している地域社会と連携した体験的学習を中心としたキャリア教育の取組や、学校設定教科・科目「キャリア」の授業をとおして、生徒のキャリア発達能力を支援し、社会人として必要な資質・能力である「社会人基礎力」を醸成することができたことがわかる。

〔社会人基礎力意識調査 全生徒 実施時期 平成22年4月・12月〕



イ 教師への効果

「介護実習」「東商アウトレットモール」「東商朝市」「インターンシップ」「新商品開発」などの指導をするために、教師自身も生徒とともに様々な体験をすることになり、校内や教室内だけの指導ではなく、地域と連携した「キャリア教育」の教育活動における意義を理解することができるようになり、指導者側への効果も大きいものがある。また、アンケート調査においてもキャリア教育に対する肯定的意見が多い。
[教職員アンケート]



ウ 保護者・地域等への効果

「介護実習」「東商アウトレットモール」「東商朝市」「インターンシップ」「新商品開発」などの事業は、全て地域連携の中で実施しており、保護者も含め本校のキャリア教育の取組に協力したいとの地域からの要望が強い。特に、「アウトレットモール」「朝市」や「新商品開発」においては、保護者の方々が、積極的に応援してくれており、地元商工会議所や近隣の大学・農業大学校などとの強い連携も生まれている。

本校が展開している「地域と連携したキャリア教育」の成果が認められ、各種団体から以下のような多くの賞を受賞することができ、外部から高い評価を受けている。

- 千葉県教育委員会
魅力ある高等学校づくりチャレンジ大賞 教育長賞（最優秀賞） 受賞
教育奨励賞 団体賞 受賞
教育功労者賞 団体賞 受賞
- 東金市
東金市政功労者賞 団体賞 受賞
- 東金商工会議所
地域貢献賞 団体賞 受賞

○東金駅西口商店会連合会
地域貢献感謝状 団体賞 受賞

(2) 実施上の問題点と今後の課題

ア 実施上の問題点

- ① 第2学年学校設定教科・科目「キャリア」の客観的評価が難しい。
- ② 第3学年学校設定教科・科目「キャリア」は、講座ごとに内容が異なるうえ、前期と後期に分かれるため、統一的な評価が難しかった。
- ③ 地域企業・団体との連携において、連絡・調整等の仕事量が過大であった。
- ④ 人事異動があるため、転任・新任職員に対する「キャリア教育」の研修を実施したが、まだ理解・認識が不十分な職員がいた。
- ⑤ 2時間連続の講習会を開催する際、授業の振り替えをする必要があった。
- ⑥ 「インターンシップ」や「介護実習」を実施する際、特別時間割を組む必要があった。
- ⑦ 第2年次に介護実習がインフルエンザのため中止になってしまった。
- ⑧ 学年ごとに「キャリア教育実行委員会」を設けて、キャリア教育活動に取り組んだが、学年間の連絡・調整が十分でなかったことがあった。
- ⑨ 運営指導委員会を開催したが、全員が揃って開催することが難しかった。

イ 今後の課題

- ① 研究開発における教育課程の特例がなくなるため、通常教育課程に戻った場合でも、できるだけ現在実施しているキャリア教育活動を展開できるよう検討する。
- ② 新学習指導要領に対応した教育課程を編成する際に、キャリア教育の位置づけを明確にする。
- ③ 研究開発学校としての予算的な措置がなくなるため、継続してキャリア教育に取り組めるよう、キャリア教育活動の実施内容・方法等を検討する。
- ④ 校内のキャリア教育実行委員会の組織について見直しを行う。

千葉県立東金商業高等学校 教育課程表（平成22年度）

		各教科の授業時数										特別 活動	総 授業 時数	
		国語	地理 歴史	公民	数学	理科	保健 体育	芸術	外国 語	家庭	商業			キャ リア
第 1 学 年	単 位	4		2	3	2	3		4		1 1		1	3 0
	時 数	140		70	105	70	105		140		385		35	1,050
第 2 学 年	単 位	3 選 2	2		4	3	3		3 選 2	2	6 選 2	1	1	3 0
	時 数	105 選 70	70		140	105	105		105 選 70	70	210 選 70	35	35	1,050
第 3 学 年	単 位	2 選 6	5				3	2	3 選 3	2		3	1	3 0
	時 数	70 選 210	175				105	70	105 選 105	70		105	35	1,050
計	単 位	9 選 8	7	2 選 3	7 選 3	5 選 6	9	2	1 0 選 5	4	17 選 11	4	3	9 0
	時 数	315 選 280	245	70 選 105	245 選 105	175 選 210	315	70	350 選 175	140	595 選 385	140	105	3,150

※ 第3学年の選択科目については、3科目・9単位を履修する